

# シネマ203

北ぶらくり丁の小さな映画館

たまにはちょっと、映画でも

北ぶらくり丁の小さな映画館で、冒険がはじまりました。  
アパートの扉の奥の一室で、大きなスクリーンと、包み込むような音響が  
好奇心旺盛なあなたをお待ちしています。

ドキドキするような世界の映画との出会いがある。  
ここは、異国への入口／異郷への出口。

和歌山の皆さま、月に2時間の小旅行へようこそ。

## 🎫 入場料金 (基本料金)

一般: 1,700 円 / 大專: 1,500 円 / 小中高: 1,000 円

- ※ 当日入口にて現金のみ。各回上映 10 分前開場。全席自由席。受付順にご入場ください。
- ※ 特集上映など各種割引料金の設定あり。詳しくは HP やチラシにて。

最新スケジュール →



📍 アクセス [北ぶらくり丁会館 2F] 本町公園より徒歩 1 分  
北ぶらくり丁と本町公園を南北につなぐ細い通りに  
[北ぶらくり丁会館]の鉄看板アリ。奥の赤い階段を 2 階へ。

## 【駅から徒歩／バス】

和歌山市駅より徒歩 10 分／バス 1～2 分(800m)  
和歌山駅より徒歩 25 分／バス 5～9 分 (2km)

北ぶらくり丁会館 203号室

# シネマ203

cinema203 3月の上映



和歌山市中ノ店北ノ丁22  
北ぶらくり丁会館 203号室  
090-8172-7074

cinema203.com



## 3/1(土)より 70年代の遺産

映画『太陽の塔』以来でしょうか。世代を問わず「見たい！」の声をこんなに耳にするのは。ピンク・フロイド、レッド・ツェッペリン、ポール・マッカートニー、ピーター・ガブリエル、10cc……ヒプノシスが手掛けたレコードジャケットのどれか1枚くらいは、どこかで目にしたことがあります。でも、心当たりがなくても大丈夫。流行がただの消費で終わらなかった時代、ものづくりが芸術活動であった美しい時代の興奮を、シャワーのように浴びてもらえると思います。あれから半世紀の時の流れを、再結成で話題沸騰中のoasisより、兄ノエル・ギャラガーが見事に解説してみせてくれます。

音楽だけの話じゃ、ないんだよなあ。好奇心旺盛なすべての方に、そして、未来を担うすべての若者に捧げます。



## 『ヒプノシス レコードジャケットの美学』Sqaring the Circle

監督：アントン・コービン

出演：オーブリー・パウエル、ストーム・トーガソン（ヒプノシス）、ロジャー・ウォータース、デヴィッド・ギルモア、ニック・メイスン（ピンク・フロイド）、ジミー・ヘイジ、ロバート・プラント（レッド・ツェッペリン）、ポール・マッカートニー、ピーター・ガブリエル、グレアム・グールドマン（10cc）、ノエル・ギャラガー（oasis）ほか

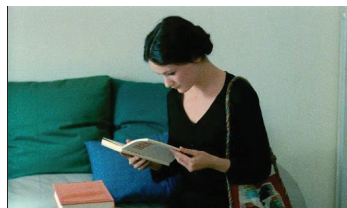
配給：ディスクユニオン | 配給協力：アルファズベット  
(2022年/イギリス//英語/101分)

## 3/7(金)より “こんな映画はない。永遠に新しい（ヴィム・ヴェンダース）”

もしかしたら13年前に、梅田ガーデンシネマでご覧になった方がいらっしゃるかもしれません。あるいは47年前の岩波ホールに並んだ方も。この映画のまわりでだけゆったりと流れた年月を経て、『白夜』がはじめて和歌山にやってきます。

この映画が特別なのは、上映が難しかったということもあるかもしれない。だけど、時を超えて新しい映画ファンが「見たい」と思う映画には、理由があるような気がします。大勢の「もういちど見たい」に導かれて、観客から観客へと、手渡しで引き継がれていく映画には、たぶん理由が。

ドストエフスキーの愛の名作をなぞりながら、セーヌに白夜が訪れます。映画の原題は「夢想者の四夜」。1970年のボンヌの宵闇に輝く美しさ儚さを、2025年のあなたへ。



## 『白夜』Quatre Nuits d'un rêveur [4Kレストア]

監督・脚本：ロベール・ブレッソン | 原作：ドストエフスキー

撮影：ビエール・ロム | 録音：ロジェ・ルテリエ | 美術：ビエール・シャルボニエ | 編集：レイモン・ラミ | 出演：ギヨーム・デ・フォレ、イザベル・ヴェンガルテン、ジャン＝モリス・モノワイエ

日本語字幕：寺尾次郎 | 配給：エタンチェ、ユーロスペース  
(1971年/フランス・イタリア合作/仏語/1.66:1/83分)

## 3/11(火)より 「巨匠タル・ベアラが、福島で映画ワークショップを開く!？」

東日本大震災から13年が経過した福島で、地域住民との交流を通じた映画制作のアーティスト・イン・レジデンスを実施する。指導者は、内戦で荒廃したサラエボに国際的な映画学校を立ち上げ、多くの優れた映画人を輩出してきた巨匠タル・ベアラ——突然の告知からわずか10日後の締切までに、世界中で映画監督を目指す185人の応募が殺到。監督自身が応募者から寄せられたすべての短篇作品を視聴し、選抜します。日本から4人、コスタリカ、中国、台湾から1人。最終的に7人が極寒の福島に集結することになりました。

初日に用意されていたのは、現在の福島見学ツアー。ここで何を撮ればいいのか……バスの中から黙って風景を眺める参加者に怒号が飛びます。「外に出て人と会ってこい！」そして2週間後、7本の短編が完成しました。そしてその様子を、タル・ベアラの愛弟子・小田香が記録しました。このチームでなければ撮れなかった“FUKUSHIMA”、できなかった2本の映画を、14年後の和歌山で、順番にぜひご覧ください。

## FUKUSHIMA with BÉLA TARR -filmmakers in residence-



## 『LETTERS FROM FUKUSHIMA』

タル・ベアラに選ばれた7人の若手監督による短編集。

(2024年/日本/日本語・英語/日本語英語字幕/159分)

## 『FUKUSHIMA with BÉLA TARR』

撮影・編集・監督：小田 香

グレーディング：長崎隼人 | 音響：山崎 巖

プロデューサー：秦 岳志 | 製作総指揮：富田三起子

(2024年/日本/日本語・英語/日本語英語字幕/180分)

## 春の風を、山の国からお届け！ 新年度はいよいよ“女性上位時代”到来の予感……？

寒波の中、2月もありがとうございました。フランスとイタリアからやってきた「映画にまつわる映画」は、チラシや予告で抱いていた甘い想像とは違い、硬派でビュアで誠実な監督の姿勢に強く共感！ ああ早く新しい映画が見たい…今月もどどん上映します。

3月は、偶然にも「70年代の遺産」が並びました。デザイン集団ヒプノシスが、レコードジャケットでロックに革命を起こした時代。孤高の“シネマトグラ

フ”作家ブレッソン異色の1本がふいに生まれた時代。そして福島第一原発が、6機の運転を開始した時代。それぞれの半世紀先に、私たちはどんな未来を見ているのか。ワイズマンのようにあるいは佐藤真のように、気付くことはあるのでしょうか。

そして4月は、はじめての2つの国、ブータンとジョージアより、「山の国特集」+αをお届けします。  
(北ぶらの私は私より)



3/30(日)は本町文化堂「音楽と無声映画」スケジュール確保マストの日！『ロイドの人気者』です!!